2015年1月号「vol.55」◎編集：新井絹世　横浜市磯子区丸山2-24-3　◎電話：045-751-5250 ◎FAX：045-761-7451

県議会議員

あらい絹世の 磯っ子レポート

県政を もっと 身近に

http://www.araikinuyo.jp

戦後も70周年となるなか何事にも「自立化」が問われている

今年は先の大戦が終結して70周年の節目を迎えます。この間、先進国では社会構造が経済高度成長社会から「おカネやモノ」の価値をほどほどにする成熟社会へと変わりました。そしてこの社会ではあらゆる方面で多様化が進み、これに伴って各分野では個々がより自立化していかなければならなくなっています。神奈川県も国からの仕事をそのままこなすのではなくより地域の特性を発揮できるよう工夫を凝らし、市町村がより自立した施策が出来るよう支援していくべきだと思います。同時にグローバル化時代に合わせ、羽田空港の活用、富士山噴火への備え、観光など、隣接の都県との広域協力体制をさらに強化すべきだと思います。今後本県としても地方版の人口ビジョンと総合戦略の策定する中で、次代を担う世代のためにも、「新しい神奈川」「新しい国」の形づくりに向け、地域の特性を生かした施策を提言してまいります。

この1年間に発行しました「磯っ子レポート」をまとめました。

2014年２月号（Vol.44）

生活習慣病をなくすことで脳卒中や心疾患の未然予防を「未病を治すかながわ宣言」皮切りに総ぐるみで展開

「未病」「未病を治す」という概念がまだ県民に浸透していないので、まずは「未病」「未病を治す」について広く周知していく必要があります。また、「食」「運動」「社会参加」の3つの取り組みを年齢に関係なく実践できる環境づくりが必要です。京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略総合特区で行っている最先端医療と未病を治す取り組みを合わせることで、健康寿命を伸ばし高齢になっても誰もが生きがいを持って健康に暮らし、長生きして幸せだったという社会を神奈川県から実現していくことをバックアップしていきます。

2014年３月号（Vol.45）

女性が開発に貢献の商品「神奈川なでしこブランド」に44件を認定

女性の活躍促進はその場限りの思いつきや臨時的な政策ではなく、中長期的な視点を持って本格的に取り組まなければなりません。神奈川なでしこブランド事業も「女性を積極的に活用すればメディアにもとりあげやすくなるから」といった人寄せパンダ的な考えでなく、継続的な事業展開を実施するよう広報・広告活動を行っていくべきです。

2014年４月号（Vol.46）

帰宅支援、医療施設耐震化、富士山噴火時の防災
神奈川県による本年度の災害事前対策の強化事業

東日本大震災という未曾有の大災害をはじめ、地震、台風、局地的な豪雨、豪雪等による災害が各地で頻発しています。自治体や国が行うハードの整備による「災害に強いまちづくり」を進めていくと共に、日頃から地域の皆さんが防災に対する意識と知識を備える必要があると考えます。

2014年５月号（Vol.47）

テーマは「未病いやしの里づくり」
神奈川県西地域の活性化策決定

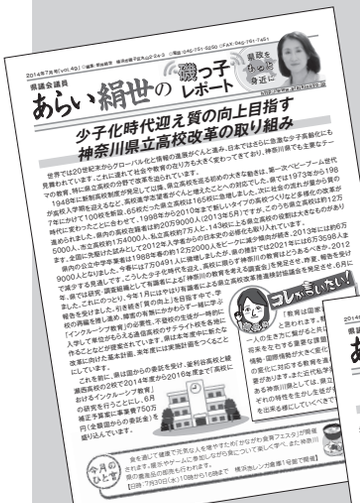
4月の人事異動により県庁に「最先端医療・最新技術の推進」と「未病を治す」取組みを進める「ヘルスケア・ニューフロンティア推進局」が設置され、県西地域活性化プロジェクトを進めるために政策局に県西地域活性化担当部長が配置されました。「未病いやしの里づくり」にはこれら色々な部局の連携が必要となりますので縦割行政ではなく部局横断的な取り組みを進めていくべきです。

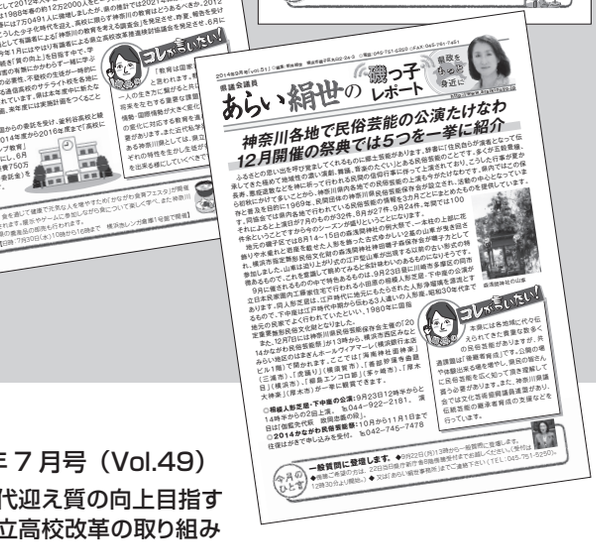
2014年６月号（Vol.48）

神奈川県立博物館に行って楽しく学ぼう
横浜で歴史と文化、小田原で地球と生命

生命の星・地球博物館・歴史博物館は箱根やみなとみらい・中華街などの観光地にも近く、県内だけではなく県外からの入館者も期待出来ます。特に生命の星・地球博物館は地球活動を基に生物の多様性を示した展示は、他館には見られない内容であり、海外の観光客からの評価も高いので今後も県内外・国外へ積極的にPRしていくべきです。

2015年1月号「vol.55」





2014年7月号（Vol.49）

少子化時代迎え質の向上目指す
神奈川県立高校改革の取り組み

「教育は国家百年の計」と言われます。教育は一人一人の生き方に繋がると共に県や国の将来を左右する重要な課題です。社会情勢・国際情勢が大きく変化する中でその変化に対応する教育を進めていく必要があります。また近代私学発祥の地である神奈川県としては、県立・私立それぞれの特性を生かし生徒が多様な選択を出来る様にしていくべきです。

2014年8月号（Vol.50）

8月13～16日には夜間公開も実施
レトロの香溢れる神奈川県庁本庁舎

平成25年度庁舎公開における来庁者数は58,064人でした。今年度は8月の夜間公開や一般開放以外にも神奈川県庁本庁舎に親しみを持って貰うため11月には大会議場で結婚式が行われます。本庁舎を開かれた県庁のシンボルとして、県を身近に感じる取り組みをこれからも行って頂きたいです。

2014年9月号（Vol.51）

神奈川各地で民俗芸能の公演たけなわ
12月開催の祭典では5つを一挙に紹介

本県には各地域に代々伝えられてきた貴重な数多くの民俗芸能がありますが、共通課題は「後継者育成」です。公開の場や体験出来る場を増やし、県民の皆さんに民俗芸能を広く知って頂き理解して貰う必要があります。また、神奈川県議会では文化芸術振興議員連盟があり、伝統芸能の継承者育成の支援などを行っています。

2014年10月号（Vol.52）

検査機器の整備や規制条例制定
神奈川県が危険ドラッグ対策

薬事法の改正により成分構造の似た薬物を一括して薬事法で規制できる包括指定を行える事となりましたが、その一方規制を逃れるため成分を変えて販売する等のイタチごっこが続いています。危険ドラッグの使用が覚せい剤や麻薬等の乱用にもつながります。警察職員の立ち入りや知事指定物としての指定をするなど現行法で取り締まれないことにも対応できる条例づくりを行っていきます。

2014年11月号（Vol.53）

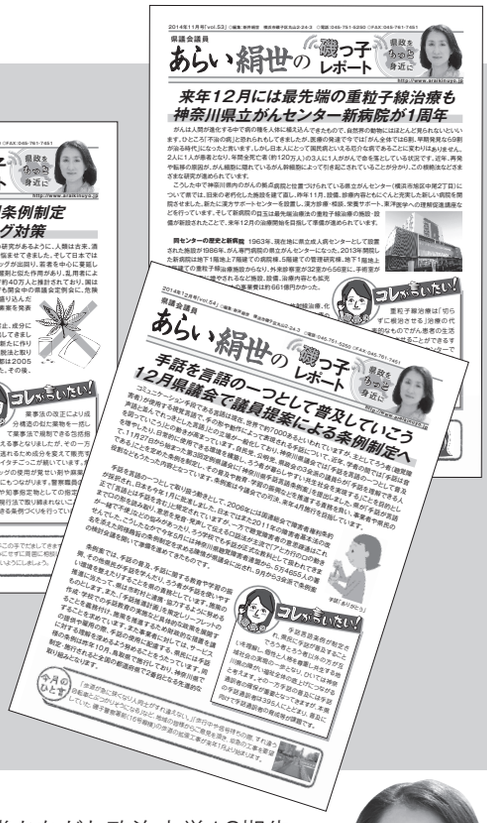
来年12月には最先端の重粒子線治療も
神奈川県立がんセンター新病院が1周年

重粒子線治療は「切らずに根治させる」治療の代表的なものでがん患者の生活の質を維持・向上させることができるすばらしい治療です。県立がんセンターでは、重粒子線治療装置導入5年後（平成31年）には治療患者数を660人と想定しています。しかし、高額な治療費が全額自己負担となることや治療を行う医学物理士の人材確保・養成が課題です。

2014年12月号（Vol.54）

手話を言語の一つとして普及していこう
12月県議会で議員提案による条例制定へ

手話言語条例が制定され、県民に手話が普及することでろう者とろう者以外の方が互いを理解し、個性と人格を尊重し共生する地域社会の実現の一歩となり、ひいては神奈川県の障がい福祉全体の底上げにつながると考えます。その一方手話の普及には手話通訳者の確保が重要となってきますが、本県の手話通訳者は395人にとどまり、普及に向けて手話通訳者の育成等が課題です。



あらい絹世 プロフィール

- ●昭和43年3月8日　横浜市磯子区生まれ
- ●横浜雙葉小・中・高等学校卒業
- ●明治学院大学社会学部社会福祉学科卒業
- ●日商岩井㈱ / ㈱メタルワン
- ●自民党かながわ政治大学12期生
- ●平成23年4月　県議会議員初当選
- ●厚生常任委員

✉あらい絹世に対するご意見・ご感想・ご要望・メッセージをお寄せ下さい・・・・・・・・・・・ FAX 045-761-7451